

秋田ふくしハートネット

事業内容

事業内容	
4月	
5月	
6月	
7月	・ 第1回連絡会
8月	・ 夏祭りin愛仙 
9月	・ 第2回連絡会
10月	・ 愛仙の 「みんなでやろう！ドリームチャレンジDayへGO！」 
11月	
12月	・ 第3回連絡会
1月	
2月	
3月	

事業内容の説明

【夏祭り】

・ 夏祭りが地域の行事として定着してきており、地域の方々の参加も多く来場者も昨年を上回った。招待演芸では地元仙北市を拠点に活躍する方々の歌や演奏、郷土芸能を披露。ワークショップや販売では、利用者様がボランティアの方々と職員と一緒に接客し、事業所の取組や製品の説明を行いながら地域の方々との交流を図った。また、トイレ表示が分かりやすいようにテープやマークを用い、工夫した。

【ドリームチャレンジDayへGO！】

・ 地域のこどもたちや住民の方々と障がい者が、音楽遊びを通して一緒に体を動かすことで交流を深めた。共に学ぶ音楽を楽しむことで、音楽の楽しさを知ってもらうことを目的として、NHK「おかあさんといっしょ」歌のお兄さんとして出演された米田和正氏をお招きし、手遊びや童謡歌唱、楽器演奏、音楽鑑賞、ダンス等をみんなで楽しんだ。

○成果と▲課題（事業内容、関係機関との連携等について）

【夏祭り】

- 招待演芸では飛び入りの利用者様のパフォーマンスでステージも会場も盛り上がり、交流を図ることができた。
- ワークショップや販売を通じて、利用者様がボランティアや地域住民と交流を図るとともに、事業所の活動や製品について周知できた。
- ▲ 障がい者の生涯学習支援モデル事業が終了しても、この規模の夏祭りを今後も維持しながら地域交流を深めていくことが課題である。

【ドリームチャレンジDayへGO！】

- 今回の取組へ参加後、意思表示が難しい愛仙の利用者様が「私が書いた詩に音楽を付けてくれますか？」と笑顔で話す姿があった。ご本人にとって、今回の取組が良い刺激となった様子。
- ▲ 参加者を募集するため、市の広報やLINE等で周知を図ることは出来たが、イベントの多い時期で対象となるこども園児の参加が少なかったのが残念だった。開催の時期や内容の検討をすることが必要と感じた。

今後に向けて

【夏祭り】

・ 来場された利用者様や一般参加者の方々が、一緒に交流できるスペースや企画を設けるのもよいのではないかと。

【ドリームチャレンジDayへGO！】

・ 障がい者の生涯学習支援モデル事業が終了しても、開催時期や内容を検討しながら地域住民と障がい者の方々の交流を図れる取組を継続したい。